

回答者

東京女子医科大学東医療センター
脳神経外科教授
糟谷 英俊



自覚症状が出るのは2割以下。定期的な経過観察を行うのが原則

Q 脳ドックで髄膜腫と診断。自覚症状はないが手術は必要?

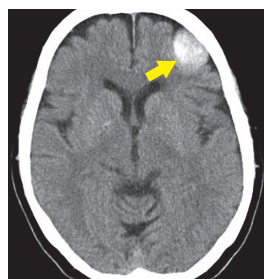
59歳、女性。脳ドックのCT検査で2cmの髄膜腫が見つかりました。「経過をみて腫瘍が大きくなったら手術をしましょう」と医師からいわれていますが、将来的に手術することになるのでしょうか。今のところ自覚症状はありませんが、今後どのような症状が出てきますか？
(東京都 A)

髄膜腫はもつとも頻度の高い良性の脳腫瘍で、成人100人のうち2〜3人にあるといわれています。最近では、頭痛や頭部外傷、脳ドック検診などで、CTやMRI検査が行われるようになって、見つかるケースがふえています。見つかった腫瘍で大きくなるのは4割以下、症状が出るのは2割以下と報告されています。まれに小さくなるものもあります。そのため、治療は行わずに定期的な経過観察を行うのが原則です。発生原因はわかっていませんが、女性に多く、乳がんと合併する場合もあることから、女性ホルモンが関係すると考えられています。放射線治療のあとや遺伝性疾患にも合併することがあります。

腫瘍のほとんどは、脳を包む髄膜から発生し、脳や神経を圧迫して症状が出るようになります。髄膜腫の症状は、腫瘍の発生

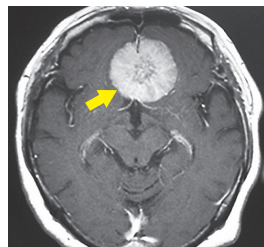
する場所により異なります。頭蓋底(頭蓋骨の底の部分)の場合は、脳神経症状(おろし、目の見えにくい、ものが二重に見える、顔の感覚がおかしい、顔の動きが非対象、聞こえが悪い、めまい、ふらつき、飲み込みにくいなど)が現れます。そのほか症状として多いものには、頭痛、まひ、けいれん発作などがあげられます。基本的には良性ですが、画像だけでは鑑別できにくい悪性の性格をもつ髄膜腫や、別の腫瘍もあります。CTのみ

写真1 髄膜腫のCT画像



脳ドックでたまたま見つかった左前頭部の髄膜腫のCT画像。白く見えるのは石灰化があるためで、このような腫瘍は大きくなりにくい。

写真2 髄膜腫のMRI画像



経過観察をされていて大きくなり、手術となった約4.5cmの前頭蓋底の髄膜腫の造影MRI。この時点でも自覚症状はない(よく調べると嗅覚低下があった)。このように、かなり大きくても自覚症状が出ないものもある。

でなく造影剤を用いたMRI検査を行うことでより正確に診断できます。大きくなりにくい腫瘍には、画像上の特徴が見られます(写真1)。若い男性は、典型的な髄膜腫でないことが多いため、注意が必要です。たまたま見つかった髄膜腫の場合でも、3カ月後に経過観察の画像検査を受け、大きくなっていないか確認したほうがよいでしょう。

症状が出て見つかった場合や、腫瘍が大きくなったとき(写真2)には治療が必要です。治療には開頭手術と定位放射線治療(ガンマナイフ)があります。薬で効果のあるものはありません。顕微鏡手術で、できる限り摘出するというのが治療の基本です。腫瘍が神経、静脈、脳に付着していて、摘出すると症状が悪化する恐れがある場合は、腫瘍を意図的に残す場合もあります。残った腫瘍が大きくなったり、再発したり、手術のリスクが高い場合には、ガンマナイフで治療します。これは、腫瘍の発育を抑える効果があります。

なお、髄膜腫の発育に影響する科学的根拠のある生活上の注意はとくにありません。